

玉造黒門越瓜「ツルつなぎ」プロジェクト「みんなの瓜畑」から守り人がお届けする

min_uri_since2020

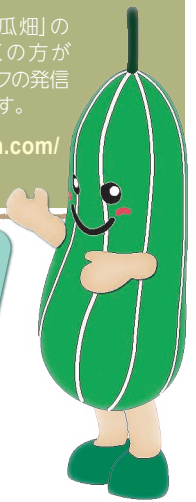
しろりNews 2023年 vol.1

企画・編集 U-CoRoプロジェクト・ワーキング ※U-CoRo=ゆーころ(上野台地コミュニケーション・ルーム)
 発行 大阪ガスネットワーク エネルギー・文化研究所(CEL) 問合せ先 tel.06-6205-3518(担当:CEL弘本)
 ホームページ <http://www.og-cel.jp/project/ucoro/index.html>

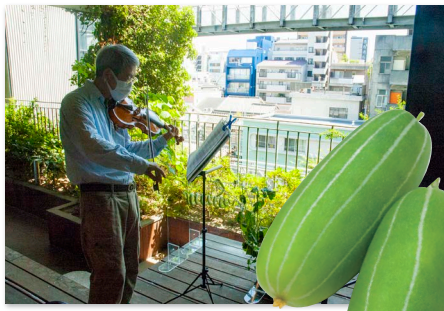


「#みんなの瓜畑」のもとに、多くの方がしろりライフの発信をされています。

https://www.instagram.com/min_uri_since2020/



2023年も、しろりの“ツルつなぎ”プロジェクトを展開中。 「森下先生と伝統野菜問答」、 Instagramに連続投稿



2022年8月7日、大阪ガス実験
集合住宅「しなやかな家」にて

Yu_uri: 写真は、昨年のしろりの収穫祭でヴァイオリン演奏をしてくださっている「なにわ伝統野菜応援団員」の森下正博先生です。地域の伝統野菜である玉造黒門越瓜(しろり)の復活にも、玉造稲荷神社禰宜(ねぎ)の鈴木伸廣さんとともに尽力されました。

Uri_mi: 先生は、大阪府立農林技術センター(現・大阪府立環境農林水産総合研究所)に勤務されていた頃から、大阪の特産野菜に関する研究などに従事されてきました。退職後も復活してきた伝統野菜の研究・普及に向けて独自に活動を行われていて、私たちの“ツルつなぎ”プロジェクトにもご参加くださり、積極的な応援をいただいています。

Uri_爺: 今年のInstagram「#みんなの瓜畑」では、森下先生に「伝統野菜ってどんなもの?」「食のものさし」の意味は?などの、素朴な疑問に簡潔にお答えいただく、「森下先生と伝統野菜問答」のシリーズを6回投稿したんじや!その内容をご紹介しますぞ!

森下先生と伝統野菜問答

その1

伝統野菜とは そもそもどんなもの?

Uri_mi: 玉造黒門越瓜などの伝統野菜は、そもそもどういうものなのでしょうか?

○森下先生: 大まかな言い方になりますが、その土地で古くから栽培され、地域の気候風土に合った作物として確立されてきた野菜のことです。

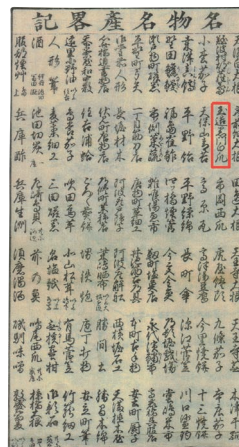
「なにわの伝統野菜」で言うと、大阪府のホームページでは、

- 「1) 概ね100年前から大阪府内で栽培されてきた野菜
- 2) 苗、種子等の来歴が明らかで、大阪独自の品目、品種であり、栽培に供する苗、種子等の確保が可能な野菜
- 3) 府内で生産されている野菜」で、大阪府では現在21品目が認証されています。

江戸時代の大坂のまちの食生活は近郊農業によって支えられており、いまの言葉で言うと「地産地消」が成り立っていました。特に野菜では、大根は守口・天王寺・田辺、蓮根は門真、蕪(かぶら)は天王寺、胡瓜は毛馬、越瓜(しろり)は玉造黒門・木津、慈姑(くわい)は吹田などの産地が生まれて

いて、当時の文献「新改正撰津国名所舊跡細見大絵図」「和漢三才図会」「撰津名所図会」などに「名物名産」として紹介されています。

画像は「新改正撰津国名所舊跡細見大絵図」の「名物名産略記」(玉造稲荷神社所蔵)



森下先生と伝統野菜問答

その2

伝統野菜が廃れた理由は何ぞ?

Uri_爺: 地域の風土に根ざしていた伝統野菜は、なぜ一時、廃れたのかのう?

○森下先生: 日本では、昭和に入ると食糧増産が盛んに言われ、「収穫量が少ない」「収穫時期が限定的」「病害虫に弱い」「不揃い」などの理由から、農家が栽培する野菜は元々地域にあった「在来種」から「交配種」※にかわっていき、昭和20年代後半からは急激にこの現象が加速していきました。

例えば、漬け物に適していた「黒いぼ系」の胡瓜は、生食に適している「白いぼ系」に、

「日本カボチャ」は「西洋カボチャ」に、「東洋人参」は「西洋人参」へと栽培品種が変化。同時に、キャベツ、レタス、トマトなどの生食用野菜の需要増も影響し、地域に昔からあった在来品種は昭和40年代を境に廃れていきました。

※「交配種」ってどういうもの?:

優良な特性を持った純系の親株同士の交配によってつくられたもので、例えば「形は良いが美味しい」株と「不格好だけど病気に強い」株を掛け合わせて「病気に強く、形も味も良い」株をつくることができます。

ただし、その株から種を取っても、特性はバラバラに発現するので、同じ品質を持った商品栽培には適さず、毎年、新たに交配種を購入することが必要になります。

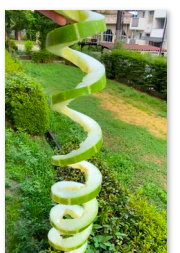
森下先生と伝統野菜問答

その3

「食のものさし」って何?

Yu_uri: 森下先生がよく仰っている「食のものさし」ってというのは、どういうものなのでしょうか?

○森下先生: 昔から私たちの身の周りにあった米、麦、いも、豆、野菜、果物、



江戸時代からの干し瓜製法、螺旋状に切る雷干し

茸、また海、川、湖の魚貝類などといった普段の日常茶飯の食べ物が、そこに住む人々の昔からの食生活の基礎であり、体に優しく、次の季節を迎えられる適切なものであったのだと考えられます。人間もその地域の気候風土下に生きる生き物であり、育み続けてくれたのは周りにあった食物で、野菜で例えればそこには様々な「地域の旬の在来種」が存在していたのです。

その意味で、各地で復活している伝統野菜も、そこに住む人々の体に合った食べ物の代表格で、言ってみると人々の「健康の源」でもありました。これは、「地産地消」や「身土不二」※といった考え方も通じるものですが、地域の産物以外の食べ物を排除するような主張ではなく、各地の伝統野菜は、その地で生活する人たちにとっては、いわば、ひとつの健康の指標、「食のもののさし」としての意味を持っているもので、大切に受け継がれていくべきものだと思うのです。

※「身土不二」って何?:

「身と土、二つにあらざ」ということで、人間の体と暮らす土地とは一体の関係にあるという意味の言葉です。「人間にとって、その土地のものを食べ、生活するのが良い」という食の考え方として、現在よく使われています。

森下先生と伝統野菜問答

その4

現代社会での 伝統野菜の価値は?

Uri_mi: 現代において伝統野菜の価値というのは、どこにあるのでしょうか?

○森下先生: 多くの伝統野菜は、何百年もの期間に数々の天変地異をも乗り越えて、これまで生き残ってきたもので、そこには、学ぶべきことがたくさんあります。

もちろん食糧の安定供給のために改良された品種も大切な存在ですが、それだけに頼っているべきではなく、両方のバランスを上手にとりながら、地域全体で人々の食を豊かにしていくことが重要ではないでしょうか。

我々にとって最も重要な意味は、農薬や肥料が十分でなかった時にも気候



四天王寺の節分会のイベントで再現されていた干し蕪(かぶら)づくり(2018年、なにわの伝統野菜天王寺)

変動、病虫害などの環境圧にさらされながらも人々は、伝統野菜の種を残すことができました。それは伝統野菜の持つ遺伝的多様性(バリエーション)にあるのだと思われます。改良された品種の有用性と、伝統野菜のもつ多様性、しかし、一方では限界のあることを見極め、両者をきちんと理解しながら継承していかなければ、伝統野菜という本物が、まだどこか遙か彼方に去ってしまい、永遠に我々の手に戻ることはないのです。それは、あまりに惜しいことだと私には思われるのです。

森下先生と伝統野菜問答

その5

復活は地域に何をもたらす?

Uri_爺: 伝統野菜の復活が、地域にもたらすものは何じやろうか。

○森下先生: 地域の食文化への理解が人々の間に次第に広がっていった、ある種の新たな「地域資源」となっているのではないかと思います。

大阪でも、伝統野菜の発祥地域などの幼稚園、小・中学校において、野菜栽培への取り組みが行われていますし、それぞれの伝統野菜にゆかりをもつ神社やお寺でのお祭りや地域のイベントなどでも伝統野菜は活躍しています。

また、加工食品や飲食業界でのメニュー開発なども進められ、それに合わせて生産量の増加も見られるようです。都市域と農村地域の間のコンセンサスを深めることで、両者にとって、食を見直すひとつのきっかけとなっており、生産者と消費者の対話を大切にした「身の丈にあった」取り組みが広がっています。

大阪のみならず、全国で芽生えかけている伝統野菜の復活は、日本型食生活を見直す点からも大きな意味を持つとともに、このすばらしい地域資源と食文化を次世代に伝えることが緊要の課題で、そこに地域としての大きな意味があるのだと思います。



森下先生と伝統野菜問答

その6

“ツルつなぎ”プロジェクトの意味は?

Yu_uri: 玉造黒門越瓜(しろり)の“ツルつなぎ”プロジェクトの意味は、どこにあると思われますか。

○森下先生: このプロジェクトの特徴は、しろりの種配りからはじまって、地域の内外でともに育てて、料理して、みんなで食べて…と最後まで続いていくこと。

“ツルつなぎ”というネーミングもとても良いと思います。気軽に参加できそうな印象もあって、結果として、地域のビルの屋上、長屋の中庭、マンションのベランダ、幼稚園や小学校と、いろんなところで育ててもらっている。

特に、“ツルつなぎ”の参加者が集まる夏の収穫祭は、私自身楽しみます。栽培体験を互いに話したり、持ち寄った料理のレシピはもちろんのこと、様々なことを伝えあう場になっています。育て方でも、例えば水やりの回数や量など、デジタルではなくアナログな情報が収穫祭でやりとりできるわけです。

しろりに関わる人たちを見てみると、大阪にはやはり「民の文化」が根付いているのだと思います。この“ツルつなぎ”プロジェクトのように、心から楽しめる取り組みを続けていながら、その土地の食の文化性や地域への愛着なども育んでいってもらえるとうれしい。上町台地の足下から、文化を育て、人、土、野菜も育てていますが、そうしたことをこれからも大切にしていってほしい。

一方で、いまや地域を越えた確かな、つながりも見られます。このプロジェクトは、個々の人々が気軽に参加されているだけでなく、例えば農を通していろいろな社会的課題の解決に取り組む人たちのゆるやかな連帯の場にもなっているようです。

こうした“ツルつなぎ”プロジェクトのような営みがあるところにこそ、世代を超えて伝承すべきことや、人と人をつないでいくものが確かにあるのだと思います。



写真は、玉造稲荷神社さんの夏祭りで大人気の「くろもんちゃん」(2016-18年撮影)

2023 Instagram
「みんなの瓜畑」
ダイアリー

4月

22日 ①

23日

24日

25日

26日 ②

27日

28日

29日

30日 ③

5月

1日

2日

3日 ④

4日 ⑤ ⑥

5日

6日

7日 ⑦ ⑧

8日

9日

10日 ⑨

11日 ⑩

12日 ⑪

13日 ⑫ ⑬

14日 ⑭

15日 ⑮ ⑯

16日

17日

18日 ⑰

19日 ⑱ ⑲

20日

21日 ⑳ ㉑

22日

23日 ㉒

24日 ㉓

25日 ㉔

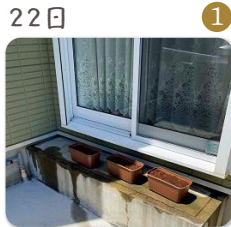
26日 ㉕

27日 ㉖ ㉗

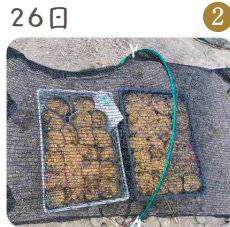
4月

- 種まき
- 出芽・ポット苗
- 本葉・植え替え
- 開花

April

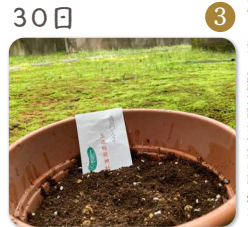
神戸の西の外れの
うどうむどう

①

山ちゃんファイター
(奈良県河合町)

②

今年も
用意周到な
準備で
大収穫に
期待!

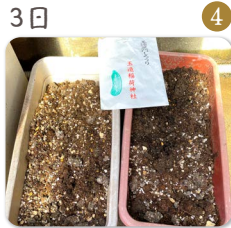
御殿山生涯学習美術センター
(枚方市)

③

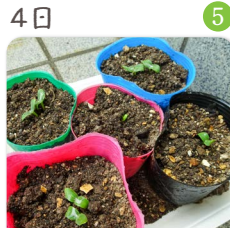
5月

- 種まき
- 出芽・ポット苗
- 本葉・植え替え
- 開花

May

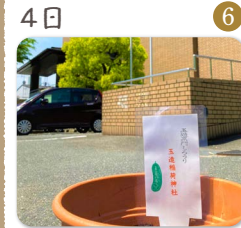
神戸の西の外れの
うどうむどう

④



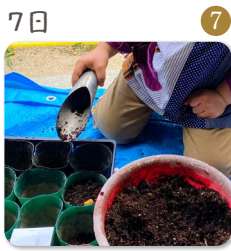
俳号季咲(京都市)

⑤

御殿山生涯学習美術センター
(枚方市)

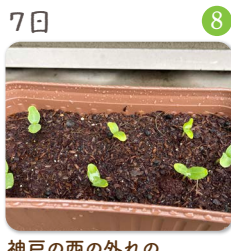
⑥

各地で
愛されている
しろりり
元気に育て!



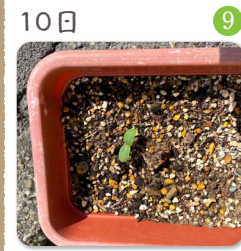
ぺんさん(奈良県田原本町)

⑦

神戸の西の外れの
うどうむどう

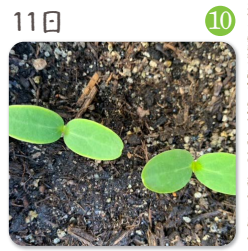
⑧

芽吹き
の季節です。
双葉が
愛らしい



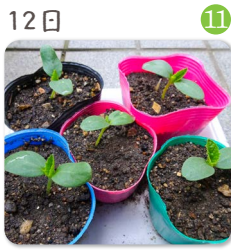
ai(大東市)

⑨



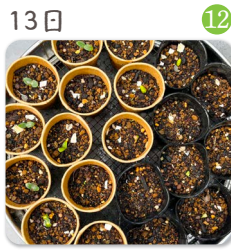
ばあちゃん(神戸市)

⑩



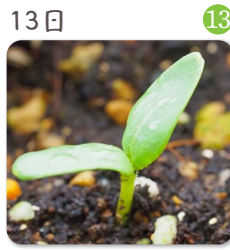
俳号季咲(京都市)

⑪



tomoe(大阪市阿倍野区)

⑫



K.H(京都市伏見区)

⑬

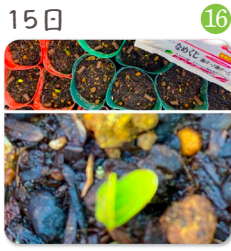


歩成りのト金(神戸市)

⑭

御殿山生涯学習美術センター
(枚方市)

⑮

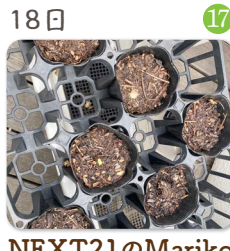


ぺんさん(奈良県田原本町)

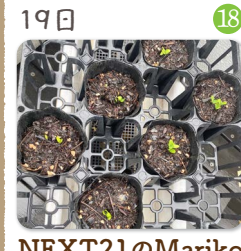
⑯



一日ごとに
次々と
芽が出て
楽しみ。

NEXT21のMariko
(大阪市)

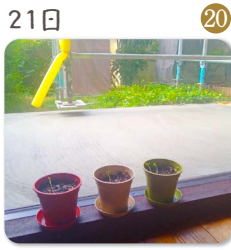
⑰

NEXT21のMariko
(大阪市)

⑱

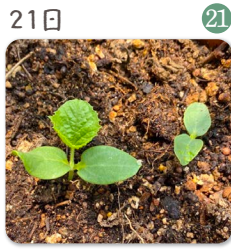
ryujiのつれあい
(吹田市)

⑲



足立ちゃん(大阪市)

⑳

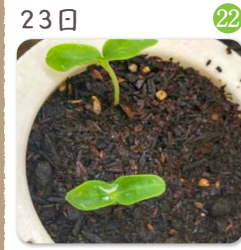


Uri爺(京都市)

㉑



植木鉢に
直まきしたのが
ぐんぐん伸びて
成長中。



やっさん(大阪市)

㉒

NEXT21のMariko
(大阪市)

㉓

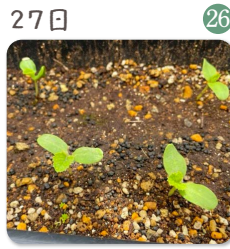
御殿山生涯学習美術センター
(枚方市)

㉔



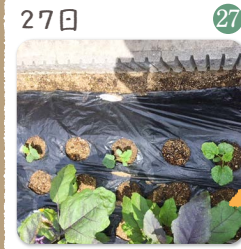
kao(奈良市)

㉕



ひーちゃん(豊中市)

㉖



キムトレ(大和郡山市)

㉗

本葉のツルが
伸びてきたので
畝に定植して
成長を見守る。

2023 Instagram

「みんなの瓜畑」

ダイアリー

5月

28日

29日

30日 28 29

31日 30

6月

1日

2日

3日 31 32

4日 33 34 35

5日 36

6日 37 38

7日

8日

9日

10日

11日 39

12日 40

13日

14日

15日 41 42 43

16日 44

17日

18日 45

19日 46 47

20日 48

21日

22日

23日 49 50

24日 51

25日 52 53 54

26日 55 56

27日 57

28日 58

29日

30日

早くも
小さな
実が!

5月 30日 28

NEXT21のMariko
(大阪市)

30日 29



Yu_uri (大阪市中央区)

31日 30



歩成りのト金 (神戸市)

6月

- 出芽・ポット苗
- 本葉・植え替え
- 開花
- 結実

June

3日 31



Kitatsuji (羽曳野市)

3日 32



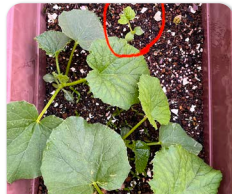
Kato家 (東大阪市)

4日 33



ぺんさん (奈良県田原本町)

4日 34



tomoe (大阪市阿倍野区)

4日 35

ryujiのつれあい
(吹田市)

5日 36



Mippo (京都市)

6日 37



Uri_mi (京都市)

6日 38



俳号季呼 (京都市)

畝に並ぶ
肥料の袋は、
ウリハムシ
除け。

11日 39

泉州・箱作の菜園
レポーター: Yu_uri

12日 40



Uri_mi (京都市)

毎年、
たくさんの実りを
得ている人でも
今年は、
苦戦される例も。

15日 41



kao (奈良市)

15日 42



もりの休日運営事務局

15日 43

玉造稲荷神社瓜畑
レポーター: Yu_uri

16日 44



みやうりちゃん (宮崎県)

18日 45



EIKO (大阪市天王寺区)

19日 46

NEXT21のMariko
(大阪市)

19日 47

ryujiのつれあい
(吹田市)

20日 48



Yu_uri (大阪市中央区)

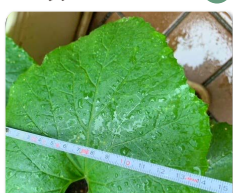
6月中旬には
本葉が出て、
定植の時期
中には摘心や、
早くも開花が
見られます。

23日 49



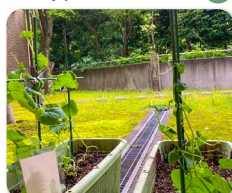
kao (奈良市)

23日 50



ばあちゃん (神戸市)

24日 51

御殿山生涯学習美術センター
(枚方市)

25日 52



K.H. (京都市伏見区)

25日 53



塚ちゃん (大阪市西区)

25日 54

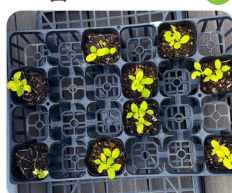


tomoe (大阪市阿倍野区)

26日 55

NEXT21のMariko
(大阪市)

26日 56

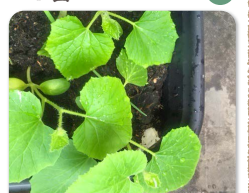
NEXT21のMariko
(大阪市)

27日 57



saemi (奈良県田原本町)

28日 58



歩成りのト金 (神戸市)